

# 校長室だより

令和4年度

6月

令和4年6月24(金)  
志免町立志免東小学校  
校長 宮邊 淳一

## 大好きな自分に近づくために



6月も後半。子どもたちはお互いに友だちも増え、交友関係も深まってきているようです。そんな中、お互いの気持ちがすれ違ったり、すれ違った思いの修正に悩んだり、心を揺れ動かすことも多くあるようです。私が以前、担任をしていたときに感じた思いや、子どもの様子を見ていて感じることにについてまとめてみます。

学校生活の中で時折耳にする言葉なのですが、「～してあげる」という言葉を、どう感じますか？もしかしたら、これは、友だち同士の会話の中でもよく聞かれることかもしれません。

「わたしが、これをもって行ってあげる。」

「私が相談にのってあげる。」

「私がしておいてあげたよ。」

「先生に言うておいてあげる。」

「今日、遊んであげる。」



一見親切に見えるこの言葉ですが、私自身はできるだけ使わないようにしている言葉です。なぜなら「～してあげる」という言葉には、「私があなたにしたことに感謝をしないといけないよ」という、相手に自分の思いをおしつけるような気持ちが込められているように感じるからです。確かに、自分の相手への行為は相手のためになり、相手からとても感謝されることなのかもしれませんが、「～してあげる」という行為のあとについてくる思いにはどんなものがあるのでしょうか。また、相手はその行為を本当に望んでいたのでしょうか。

「あのとき～してあげたのに、私にはしてくれないの。」

「私が～してあげてるのに、その通りにしないのはどういうこと？」

「私はあなを友だちと思ってあげているのに、あなはそうではないの？」

相手に対してかける言葉や行為は、相手の意をくむ「思いやり」であり、「おしはかり」であることが大切だと私は思っています。本当に相手のことを考え、思ってとる行為は、「思わず言ってしまう」「思わず手をさしのべていく」「気がつくとしてしまっていた」ものではないかと思いますが、いかがでしょう。

「わたしが、これをもって行っておこうか。」

「私でよければお話、聞こうか。」

「私がしておこうか。」

「先生に言うてこようか。」

「今日、一緒に遊ぼうよ。」

相手の意をくんで話していくと

○「うん、ありがとう」

○「ううん、だいじょうぶ。でも、ありがとう。」

こんな返事が聞こえてきそうです。

この他にももっと素敵なお言葉があるかもしれませんが、上述のお言葉も、こんな言葉に置き換わっていくと、人間関係ももっと円滑になっていくように感じます。

辛そうにしている友だちに「どうしたの？」とかける言葉が、「声をかけてあげる」ものではなく、「知らず知らずのうちにかけていた」「声をかけずにはいられなかった」ものでありたいですね。子どもたちには、人間関係の中で1つ1つ考え、過ごしていきながら大好きな自分に近づいていってほしいです。

6月15日(水)に、花の植え替え作業を行いました。校内の花壇やその周辺が美しく整い、学校全体がとても美しくなりました。たくさんのボランティアの皆様にご参加いただき、作業をしてくださったこと、心より感謝いたします。

